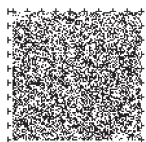


目 次

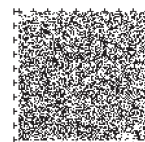
▶ 郡山市制施行100周年に寄せて	
・ 郡山市長 品川 万里	4
・ 郡山市議会議長 佐藤 政喜	5
▶ 記念事業コンセプト／実施方針／実施期間／記念事業キャッチフレーズ	6
▶ ログマーク	7
▶ 記念式典	
・ 1日目（表彰式）	8
・ 2日目（音楽祭）	10
▶ 民間団体等による記念事業	12
▶ 市主催・共催の事業	40
▶ 広報事業	
・ ウェルカムフラッグ／ログマークピンバッジ／ログマークシール	66
・ 車両用マグネットシート／ポスター／クリアファイル	67
・ 各種媒体等を活用した広報	68
▶ プロモーション委員会	
・ プロモーション委員会会議経過	71
・ プロモーション委員会委員名簿	72
・ 郡山市制施行100周年記念事業プロモーション委員会開催要綱	73
▶ 映像アーカイブ（市公式YouTube）	74





市制施行を記念して建てられた郡山公会堂

▶ 市制施行100周年に寄せられたメッセージ	
・ 西田敏行様	75
・ 箭内道彦様	76
・ G R e 4 N B O Y Z	77
▶ 記念楽曲等	
・ 「ゼロ年目からのバインダー」	78
・ 「ひらけみらいへ」	80
・ 「采女ドンドコ」	82
・ 記念楽曲歌詞	84
▶ 寄附者一覧	85
▶ 寄附金の使い道	91
▶ 付録	
・ 2024年にあった出来事	92
・ 100年前（1924年）にあった出来事	94
▶ 事業索引	95



郡山市制施行100周年に寄せて

郡山市制施行100周年記念式典 市長式辞

本市は関東大震災の翌年の1924年（大正13年）9月1日に全国で99番目の市として誕生し、本年9月1日、市制施行100周年を迎えました。

この100年、本市は幾多の困難に直面してまいりました。

先の大戦における4度の空襲や度重なる水害、そして2011年に発生した東日本大震災とそれに伴う原子力災害、近年では新型コロナウイルス感染症など、市民生活に大きな爪痕を残す多くの災害に遭遇してまいりました。

その一方で、1964年（昭和39年）の新産業都市の指定、1997年（平成9年）の中核市への移行、2019年（平成31年）には本市を含む17市町村による「こおりやま広域連携中枢都市圏」の形成や、SDGs未来都市への選定など、時代の変化に応じた新たな制度を積極的に取り入れてまいりました。

また、道路、鉄道などの高速交通体系の整備が進められ、農業・商業・工業の各産業は目覚ましい発展を遂げるとともに、音楽をはじめとした盛んな文化・芸術活動は、市民生活にゆとりや潤い、生きがい、地域の活力の源になりました。

このように、私たちは苦難に直面するたび、先人から受け継いだ「開物成務」の精神で歩みを止めることなく、積極果敢なる復興に挑み、おおきな飛躍を遂げてまいりました。現在では、人口31万8千人、法人数1万4千法人、市町村内総生産は1兆3,863億円、工業団地面積927.8ヘクタールと、県内一の中核市として、福島県のみならず、東北地方をけん引する都市の一つとして発展を続けております。

これもひとえに、市民の皆様をはじめ、先人の御尽力の賜物であると、改めて心より感謝申し上げます。

しかるに、現在、私たちは人口減少、少子高齢化、気候変動など時代の大きな転換点にあります。こうした変革期こそ、将来の予見可能性を高め、先手先手で対応する「フィードフォワード」の視点のもと、一つひとつの課題を解決し、次の100年の礎となる持続可能な「課題発見・解決先進都市」を構築していかなければなりません。歴史的、地理的に本市を俯瞰する時、福島県はもとより、さらに広域的に貢献すべき都市として、本市の果たすべき役割は大きいものと認識を新たにしております。

そのためには、次世代を担う子どもたちが健やかに成長し、将来一人二役・一人三役の活躍をしていただけるよう、「子どもが安心して生まれ、育つ ベビーファーストのまち郡山」の実現を目指すとともに、DXの積極的な推進の下、世界的課題であるサーキュラーエコノミー推進によるカーボンニュートラルの実現等、SDGsの理念である「誰一人取り残されない」まちづくりを進めてまいらなければなりません。

たゆみない100年間の歩みの中で、先人は何事にも自由にチャレンジできる、まちの風土を築いてこられました。変化の激しい現代だからこそ、こうした先人の思いを受け継ぎ、いわば「楽市・楽座」にならい、市民の皆様、事業者の皆様が自由闊達に活躍できる、人を自由にする空気に満ちたまちづくりを目指してまいります。

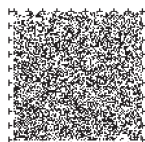
そして私たちが先人に敬意を表するように、100年後、そして1000年後の市民の皆様にも評価いただけるよう、「ひらけ未来へこおりやま」を合言葉に、誰一人取り残されず、多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じられる「ウェルビーイング都市・郡山」の創生・発展を目指し、共に歩んでまいりましょう。

どうか皆様におかれましては、これまでの豊富な経験と高い識見により、引き続き、市勢発展と市民福祉の向上のために、先導的役割を果たしていただきますようお願い申し上げます。



郡山市長

品川 萬里



感謝を忘れず、オール郡山で新たな歴史を

2024年（令和6年）9月に郡山市制施行100周年を迎えられましたこと、大変喜ばしく思います。100年という長い歴史に思いを馳せますと、とても感慨深いものがあり、先人たちのたゆまぬ御努力により今日の郡山が築かれたことを、改めて心深くに刻印いたしました。

本市は1924年（大正13年）9月1日に郡山町と小原田村が合併して、人口39,003人を擁し、全国99番目の市として誕生しました。明治時代の国営開拓第1号の事業である「安積開拓・安積疏水開さく事業」によって、豊かな大地と水の恩恵を受けた本市は、農業・工業・商業がバランスよく成長を続け、1997年（平成9年）4月には中核市に移行しました。

そして、2011年（平成23年）3月の東日本大震災を乗り越え、東北有数の都市として発展してまいりました。

市制施行100周年と時を同じくして市議会も100周年となりました。令和6年9月定例会開会日には市議会100周年を記念した議場コンサートを開催し、多くの市民の皆様へ足を運んでいただき、市議会を身近に感じていただくことができました。今後も次の100年に向け気持ちを新たに、議員一丸となり、市民の皆様への信頼と負託に応えるべく、より良い郡山市を目指してまいります。

結びに、郡山市政の発展の礎を築いてこられた先人をはじめとして、全ての皆様へ感謝と敬意を表しますとともに、100周年という大きな節目を迎えた今、オール郡山で新たな歴史を築いてまいりましょう。



郡山市議会議員長
佐藤 政喜

